県西部地域でウエストナイルウイルス感染症の浸潤状況調査を開始

下関農林事務所畜産部
平成22年7月9日

ウエストナイルウイルス感染症（西ナイル熱）は蚊が媒介する人獣共通感染症で1999年に突然ニューヨークで発生し、その後、米国全土とカナダ・メキシコ近隣諸国へと感染拡大している熱性ウイルス疾患で、この病気は主に人や鳥ならびに馬等に感染し、脳炎を引き起こし死亡する病気です。

特に我が国に生息しているヒトスジシマカやアカイエカ等は、このウイルスの媒介者となりやすいため本病の我が国侵入が危惧されています。

そこで、我が国では平成15年から国・県等をあげ毎年ウイルス侵入状況調査（牛舎に集まる蚊を捕獲してウイルスの有無を検査）が行われ、本年度、山口県では県中部と西部（下関市豊田町）で今月中旬から毎月、畜産農家の協力を得て調査開始いたします。

今後も、本病の侵入防止と早期発見に努めてまいります。

牛舎内の蚊捕獲状況